



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第33主日 A年(2023年11月19日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：箴言 31章10—13、19—20、30—31節

第二朗読：テサロニケの信徒への手紙一 5章1—6節

福音朗読：マタイによる福音書 25章14—30節

## 神さまとの信頼関係

三つの朗読から

第一朗読での「有能な妻」とは、神の知恵のことです。有能な妻は働き、幸せをもたらします。同じように神の知恵も働き、幸せをもたらしてくれます。有能な妻をほめることは、神の知恵をほめたたえることなのです。

第二朗読に従えば、「主の日」は必ずやってきます。暗闇にある人にとっては、その日は突然やってくるものです。しかし、わたしたちは「光の子」ですから、その日が突然やってくることはないのです。

福音朗読に登場する主人は、少しのものではない金額を僕たちに預けます。預けてくれた主人の気持ちを思うと、精一杯それに応えたいという願いが生まれるでしょう。それが、忠実さであり、主人に従うことの内容です。もうけた金額の多い少ないが問題なのではありません。

## 説教：神さまとの信頼関係

今日の三つの朗読からテーマを取り上げるとしたら、「神さまとの信頼関係」といえるでしょう。第一朗読には「有能な妻」とあって、妻が神の知恵を暗示しています。神さまはご自分からでる知恵(神の知恵)に全幅の信頼を寄せています。知恵もまた、その信頼に応えていこうとします。11節にある「夫は心から彼女を信頼している」は、男性のわたしにとってはここに響くことばになります。

第二朗読で味わいたいのは、5節にある「あなたがたはすべて光の子」という一節です。洗礼によってキリスト者は光の子とさせていただきます。光の子は自分で光るのではありません。「光からの光」(ニケア・コンスタンチノーブル信条参照)である主キリストの光を輝かせるのです。「光の子」らしく生きるようにと、父である神さまはわたしたちへの信頼を込めて御子イエスさまをこの世へと送ってくださったのです。

福音朗読に見える、信頼する主人と、それに応えていく僕たち、応えられない僕についてはすでに指摘しました。神さまに従って生きていくとは、神さまの「信頼」に従って生きていくことに他ならないのです。

神さまがわたしたち一人ひとりを信頼しているのはどこで分かるでしょうか。第一朗読に則して考えてみたら、「人生の知恵」を神さまからいただいたことが、他ならぬ神さまの人間に対する信頼を表していると思います。「人生の知恵」ばかりではありません。「信仰」も、「能力」も、「性格」も、そして「いのち」すらも神さまからいただいたもの、与えられたものです。神さまからの一方的な人間への信頼の中で、わたしたちは生きてゆくのです。

この事実は、時にはわたしたちにとって重いものです。一人ひとりをかけがえのないものとして信頼してくださるのは、重荷にもなるでしょう。「恐ろしくなり」という僕の気持ちは分からないでもありません。しかし預けられたものを「地中に隠して」しまうのは残念な気もします。

11月は死者の月であり、終末の月です。今日の朗読箇所は一読したところで、終末との関わりは見いだせないかもしれません。しかし、神さまとの信頼関係の中で「今」を生きる。そして与えられた「知恵」を「いのち」を「隠して」しまうのではなく、精一杯生きることこそ終末を生きることなのです。終末とはこの世の向こうにあるのではなく、「今」、「ここに」生起するものなのです。

## お知らせ

### クリスマスの予定

12月24日(日) 待降節第4主日

ミサ時間：7時(修道院のミサ)、8時半、9時半

主の降誕の夜半のミサ ミサ時間：17時、19時、21時

12月25日(月) 主の降誕の日中のミサ

ミサ時間：7時(修道院のミサ)、10時